

周辺環境をチェック！…人間の生活域で被害に遭わないために

地域の状態をチェックしてみましょう。

栗

柿

桑の実

ハチミツ

クマを寄せる物を除去する。

鋭い嗅覚を持っているため、風で運ばれる匂いで人里に誘引されます。

一度エサがあると覚えると、毎年訪れるようになります。特にハチミツ(養蜂箱)や、放棄果樹(カキ・クリなど)、生ゴミ(穀物や甘い匂いのする物)に注意しましょう。

農耕地などのエサになる物へ防護柵を設置し、管理を行う。

クマの集落周辺への侵入や一時的な定着を防止するための耕作放棄地などの整備や藪の刈り払いを行う。



ツキノワグマ(以下、クマという)の生態と行動

◆体長は110～130cm、体重約60～150kgの大型動物です。

◆非常に優れた聴覚・嗅覚を持っており、高い音には敏感であり、笛や鈴などによってクマとの遭遇を回避できると言われています。

◆行動は広範囲に及び、オスで10～250km²、メスで4～100km²程度と言われています。

◆食性は、植物性に偏った雑食性であり、新芽や草本類、昆虫・動物質を採食します。冬眠を控えた秋にはドングリを大量に採食する必要があるため、ドングリの豊凶年にはクマが人里への出没が増加する傾向にあります。

◆冬期は樹洞、土穴などで越冬し、雪解け頃から活動を始めます。

◆出産は2～3年おきに1回、平均産子数は1.7頭であり、ニホンジカやイノシシと比べて繁殖率が低いのが特徴で、個体数が減少すると回復に時間がかかる動物です。

◆寿命は、野生下で15～20歳程度と考えられます。

◆群馬県内の生息頭数は、約1,200頭と推定されています。

クマと共存するために

国土の約70%を森林が占める日本において、クマは自然の豊かさを表す代表的な動物であり、自然生態系の頂点に位置するクマが生息できる環境を将来にわたり守っていくことは、自然環境を保全する上で重要です。

一方、クマによる農林業・人身被害などの発生によりクマと人との軋轢あつれきが生じています。共存のためには棲み分けを図り、問題を発生させるクマをつくらないことが重要です。